

# 文化生活

VERITAS VOS LIBERABIT

新渡戸文化短期大学

文化生活

52



HAPPINESS CREATOR



特集

## 人生100年時代の学び

～Nitobe styleの生涯学習～

# 人生100年時代の学び ～ Nitobe style の生涯学習～



## 「人生100年時代の学び」 ～ Nitobe style の生涯学習～

学 長 宮地 勇人

新渡戸文化短期大学は、栄養士と臨床検査技師の養成をそれぞれ1951年、1952年に開始して以来、70年以上にわたり、脈々と継続している。近年、本学の取り巻く外部環境は大きく変貌している。その1つは我が国の人口構成の変化である。我が国は、少子化により18歳人口減少する一方、超高齢化時代を迎え、人生100年時代とも言われている。超高齢化時代を迎えて、職場環境の変化に伴う社会人の学び・学び直し(リスキリング、リカレント)の重要性が認識され、国としてもその推進を支援している。栄養士は「食」を通して、臨床検査技師は「医」を通して、人々の健康を守る専門的職業である。人生100年時代を迎えて、人々の健康を守る職業人養成の役割は益々重要となっている。本稿では、人生100年時代における健康を守る職業人養成、その生涯学習のあり方について焦点を当て、本学の役割と展望について整理したい。

### 健康を守る職業人養成の役割

超高齢化時代を迎えて、寿命を延ばすだけでなく、健康に日常生活を営める期間をいかに延ばすかに関心が高まっている。健康寿命は、WHOが2000年に提唱した指標で、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義される。厚生労働省では2021年12月に2019年(令和元年)の平均寿命と健康寿命のデータを公表した。我が国の平均寿命は男性81.41歳、女性87.45歳で、健康寿命は男性72.68歳、女性75.38歳であった。平均寿命と健康寿命の差は、男性で約9年、女性で約12年である。その間、脳血管障害、認知症、虚弱など健康上の理由で日常生活が制限され、介護等の支援を受けている。健康寿命を延ばすこと、すなわち介護予防は、介護や医療資源への負担、生産年齢人口への

負担を軽減する。高齢化が急速に進む中、国民一人ひとりの生活の質を維持し、社会保障制度を持続可能なものとするには、平均寿命の伸びを上回る健康寿命の延伸、即ち、健康寿命と平均寿命との差を縮小することが重要である。

この超高齢化社会において、健康寿命を延ばすには、若い頃からの健康づくりが重要となる。そこで、人々の健康を守る専門職としての栄養士と臨床検査技師の養成の意義はさわめて大きい。

我が国では、高齢化の急速な進展に伴い、疾病全体に占めるがん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病等の生活習慣病の割合が上昇傾向にある。死亡原因でも生活習慣病が約6割を占めている。

生活習慣病の発症前の段階であるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が強く疑われる者と予備群と考えられる者を合わせた割合は、男女ともに40歳以上で高く、男性では2人に1人、女性では5人に1人の割合に達している。

そこで、生涯にわたる国民の生活の質の維持・向上のために、糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の発症、あるいは重症化や合併症への進行の予防に重点を置いた取り組みが重要となる。国は生活習慣病の予防のために、対象者(40歳～74歳)にメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導を実施している。臨床検査技師は、特定健康診査の測定実施のみならず、その検査結果の解釈と経過観察を通じた健康管理において大きな役割を果たし、栄養士は、特定保健指導後の食生活改善に関する実践的指導者(専門的知識及び技術を有すると認められる者)としての支援、すなわち日々の生活における調理、食品や栄養を通じた健康管理に大きな役割を果たす。

何歳まで働きたいか国際比較した調査によると、多くの国で60-65歳である。一方、我が国では70-75歳まで働きたい割合が比較的大きい。総務省によると2021年の65歳以上の就業者数は、909万人であった。18年連続で増加し、最多を更新した。就業率は25.1%で、65～69歳では50.3%と5割を超えた。

高齢期に就労を継続するには、日常生活が制限されることなく生活できる健康寿命を延ばすことが重要となる。平成28年(2016)版厚生労働白書において、超高齢化社会を乗り越える上で、地域住民の健康の担い手として、新しい福祉サービスの提供体制を担う人材の育成・確保の必要性が指摘された。そのためには、健康寿命を延ばすための健康づくりが重要で、高齢者には、支援される立場から福祉サービスの主要な担い手、健康づくりの仲間の役割が期待される。生きがいや心身の健康にもつながる。

高齢期に仕事を選ぶ上で重視するポイントは、自分の能力を発揮できることが挙げられる。栄養士や臨床検査技師には、その専門性を生かせる活躍の場がある。その専門性を生かして、地域住民の健康管理に貢献できる。高齢期において、自らが健康管理と介護予防に努めて長く社会活動を続けること、それを通して、住民のネットワークを踏まえて、地域住民の健康管理において指導的役割を担うことが期待される。

### 生涯学習の取り組み

健康を守る専門の職業人を養成する本学は、活力ある社会の持続のため、学び直しにおいて、重要な役割を担う。近年、両学科ともに学び直しの入学者が目立つようになった。臨床検査学科において、2022年度入学者を調査した結果、現役高校卒業でない入学者は全体83名の内20名で、約1/4に及ぶ。その内訳は、社会人7名、4年生大学卒業(学士)3名、他大学在学から志望先変更1名、専門学校卒業3名などである。入学者の背景として、異業種経験者を含めて多様なバックグラウンドを持つ社会人入学の増加傾向が見られた。18歳人口が減少し、4年生大学の全入時代を迎えた今日においても、本学(短大)における最短期間での資格取得は、学び直しにおいて、時間的にも経済的にも大きな利点が認識されていることを示す。

本学の両学科それぞれの専門分野において、より専門性を高めるため、卒後の資格の取得や進学の多様な道がある。キャリア支援として、学生の就職や進学の相談にとどまらず、就職後の資格試験受験や転職などキャリア形成に必要な技術習得などリスティング支援を行なっている。

本学では、両学科の教員に対しても、キャリア支援を目指して、教員の教育研究のFD(ファカルティ・デベロップメント、教授団の資質改善)活動を展開している。2023年度はプロフェッショナルな成長のサポートとして、キャリアパスの明確化と機会、自分自身のスキル向上を目指した学習機会・学術活動機会の創出、両学科連携プロジェクト導入、教育研究FD、メンター制を計画した。

### おわりに

人々の健康を守る専門の職業人には、人生100年時代において、拡大する役割と活躍の場に沿うキャリア形成が求められる。キャリア形成は、専門性と資質を身につけるよう日頃から研鑽を重ねるとともに、人生100年時代において、高齢期にも専門性を活かす視点を持った計画性が望まれる。本学では、超高齢化時代に活躍が期待される専門的人材の育成と生涯学習やキャリア形成に必要な環境整備を進めてきた。本学での取り組みが、国民の健康寿命の延伸と高齢期の就労により、健やかに心豊かに生活できる活力ある社会の持続に少しでも貢献出来れば幸いである。

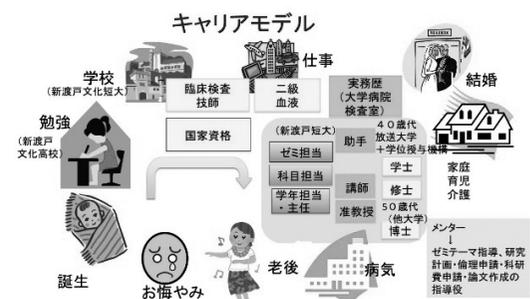


図 新渡戸文化短期大学のキャリアモデル事例

(みやち はやと)

# 人生100年時代の学び ～ Nitobe style の生涯学習～

## これから学ぶ皆さまに向けて

臨床検査学科 学科長 教授 中村 健司

新渡戸文化短期大学 臨床検査学科は、1952年4月に東京文化短期大学医学技術研究室を開校以来、1955年3月に東京文化医学技術学校を開校して、わが国最初の医学技術士養成施設としての認可を受けました。その後、1959年3月に衛生検査技師法による養成施設第1号として厚生大臣指定を受けています。以降、約70年にわたり臨床検査技師の育成に務めており、現在のチーム医療に欠かせない医療従事者を数多く輩出してきました。

現在の日本のおかれている環境は、少子高齢化社会が年々進行しており、健康面で不安を抱える人口の増加とそれを支える医療従事者の減少傾向が課題となっています。一昔であれば、ヒトの寿命と老化現象は同一の問題として捉えられてきました。しかしながら、近年の基礎医学研究の進展により、生物の寿命と老化細胞は全く別物であることが分かってきています。これは、医療の発展により、純粋にヒトの平均寿命が延びるだけでなく、効果的な対策を行えば亡くなるまで老化に悩まされずに健康で文化的な生活を送れる可能性を示しているといえます。つまり私たちは、年をとったら老いなければならないという既存概念に駆られて、少し呆けたふりをしている状態なのかもしれません。

今日の社会では、自身の学生時代に学んだことを積み上げて社会生活を送るだけでは、更新された知識と技術から取り残されてしまう危機性をはらんでいます。私たちが学生時代の生物学や科学は、哺乳類のクローンを作ることはできないことが真実であり、また分化した体細胞は再び多能性幹細胞にもどることは不可能であると信じられてきました。しかしながら、1997年に英国のウエルムット博士らがクローン羊のドリーを作成して報告、2006年には日本の山中伸

弥博士らがES細胞のような多能性幹細胞の性質をもつiPS細胞を始めて作ったことなどから、今日の生物学や基礎医学の研究は何段階も進展しました。

このような研究成果がもたらす生物や細胞に関する深い知識や技術の変化に対して、次の時代を担う新たな考えや価値観を育てていくためには、学びたいと思う方々に対して一生涯を通して学ぶことができる環境と学習の機会を提供することがとても重要です。また、各個人が新たな学びの機会を活かして、改めて新規の分野や領域に挑戦して様々な活躍ができる社会は、豊かで実りある人生の一端を担っており、これからより一層の生涯学習と学び直しの仕組みを実現することが重要となってきます。本学では、社会人や進路変更などの学生に向けたりカレント教育にも力を入れており、社会人経験者が新たに学び直し、臨床検査技師の資格を取得して医療従事者として働いている方々が近年増えてきました。また、臨床検査学に係わる医学の専門性は、ご自身の健康管理に役立つだけでなく、大切なご家族やご友人の健康を守り、かけがえのない人を支えることができる力になると信じています。

本学の教育理念としては、3H精神の実践（活く頭 Head、勤しむ双手 Hands、寛き心 Heart）を求めています。また、この精神に従い「いのち、やさしさ、おもいやり」を大切にされた教育を進めています。これらは、一見するととても簡単そうでありながら、日々の生活の中で実践しようとするとなかなか難しいことがわかります。また、今日では生命科学という言葉がありますが、生命と科学を結びつけることにはどうしても違和感をおぼえます。人の尊厳を実感するには、生物としての「いのち」を理解することが必要であると最近感じています。そのためにはまだまだ未解の生

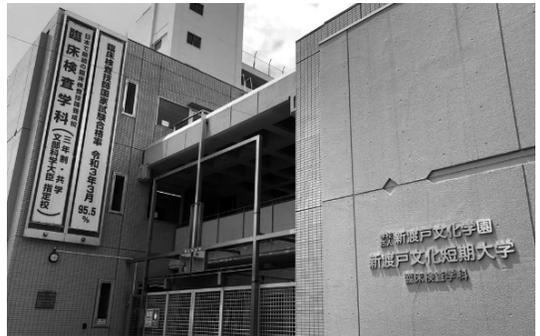
命現象が数多く残っています。皆さんも、教科書や文献の内容だけで全てを納得せずに、不明な点を挙げてその現象を説明できる仮説を立てて検証する思考と実践力が重要です。特に医療分野では、いのちの始まりと終わりについて議論されることもありますが、そのためにはもっと生物のしくみについて基本的な理解を深めて、ひとりひとりが心静かに落ちついてよく考える必要があります。

続いて「おもいやり」は、私たち人類が絶滅しないためにも必須の精神性と行動といえます。2022年にノーベル生理学・医学賞を受賞したスバンテ・ペーボ博士は、絶滅した人類の遺伝情報を解析する技術を確認し、人類の進化に関する興味深い研究成果を報告しました。例えば、ネアンデルタール人は、私たちホモ・サピエンスのご先祖様ではなく、約4万年前の地球上においてお互いに生存競争をかけて戦った全く別の人類であることがわかっています。その後、彼らは絶滅して私たちは今ここに生き残っています。両者の違いは、何だったのでしょうか。私たちホモ・サピエンスの方が賢かったのでしょうか。この仮説は、ネアンデルタール人の方が私たちよりも大きな脳を持っていたことから否定的な意見が多いと思います。では、両者の行動に何か違いがあったのでしょうか。興味深いことに、ホモ・サピエンスは多数の集落をつくり、ネアンデルタール人は少数の集落を形成して暮らしていました。人数の多い集落は、お互いのことを何よりも「おもいやる」ことが大切で、その結果、先人たちの知識と技術を多数の人に伝動することができ、世代を重ねてさらに多様な道具をつくり生活を段々と豊かにしてきました。人類が生き残った鍵は「おもいやり」をもっていたおかげともいえます。2020年からの新型コロナウイルス感染症が引き起こしたパンデミックは、私たちの日常生活を一変させました。永らく、移動や対面での交流が制限されましたし、個人主義的な行動から他者を「おもいやる心」が薄れつつありました。期せずして新規のウイルスが引き起こした各個人の孤立化は、今まさにホモ・サピエンス絶滅の危機ともいえます。これからの皆さんは、学びを継続して3H精神を具現化した「いのち、やさしさ、おもいやり」の言葉を胸に、健康で心豊か

な学生生活を自ら実践して知識と技術を研鑽して行く必要があります。人は、大きな危機や挫折を経験した方ほど、その後に大きな飛躍や成長をみせるものです。今が一番苦しいときかもしれませんが、この困難を乗り越えて、新渡戸文化の精神を学び身につけていただけることを切に願っています。



2023年度 新渡戸文化短期大学 入学式の様子



臨床検査学科 中野校舎



臨床検査学科 玄関に新たに設置された「臨床検査の歴史資料館」

(なかむら けんじ)